


安全安心運航への取り組み

— 事故の前にできること —



東尋坊観光遊覧船株式会社
代表取締役 阪本 浩三

目次

1. はじめに

- ・ 会社紹介
- ・ 特殊な船着場

2. 当社の自主訓練

- ・ 現場海域を想定した訓練
- ・ 問題点の発見と改善

3. ヒヤリハットの活用

- ・ 報告内容
- ・ 改善策の社内共有

4. 他社の事故を受けて

- ・ 事故を受けての取り組み
- ・ 新たな取り組み



会社紹介

東尋坊観光遊覧船株式会社 従業員数13名、平均年齢30～40歳

80名乗り 2隻



69名乗り 2隻



航 路

		旅客不定期航路	
航路番号	東海不第546号		
コース名	東尋坊周辺遊覧		
料 金	1,500円	2,000円	
航路距離	1.6k(30M)	27.6k(1H)	
起終点	東尋坊～東尋坊(A) 海水浴場～海水浴場(B)	東尋坊～九頭竜川～東尋坊 海水浴場～九頭竜川～海水浴場 石島～九頭竜川～石島	
航路番号	東海不第546号	東海不第593号	
コース名	九頭竜川・越前松島	北本町・東尋坊	
料 金	2,000円	① 18.4k(45M) ・ ② 14.0k(30M) ③ 20.4k(50M) ・ ④ 6.4k(15M)	
航路距離	27.6k(1H)		
起終点	北本町～鎌島・越前松島～北本町	①北本町～東尋坊 貸切30名まで 40,000円 東尋坊～北本町 1名乗子毎に1,100円 ②海水浴場～東尋坊 貸切30名まで 38,000円 東尋坊～海水浴場 1名乗子毎に1,100円 ③北本町～海水浴場～東尋坊 貸切30名まで 40,000円 東尋坊～海水浴場～北本町 1名乗子毎に1,100円 ④北本町～海水浴場 貸切30名まで 38,000円 海水浴場～北本町 1名乗子毎に1,100円	

特殊な船着場

船着場の特性

- ✓ 岩礁の露出
- ✓ 風・波の影響



狭い乗り場での離着岸



崖を利用した急階段



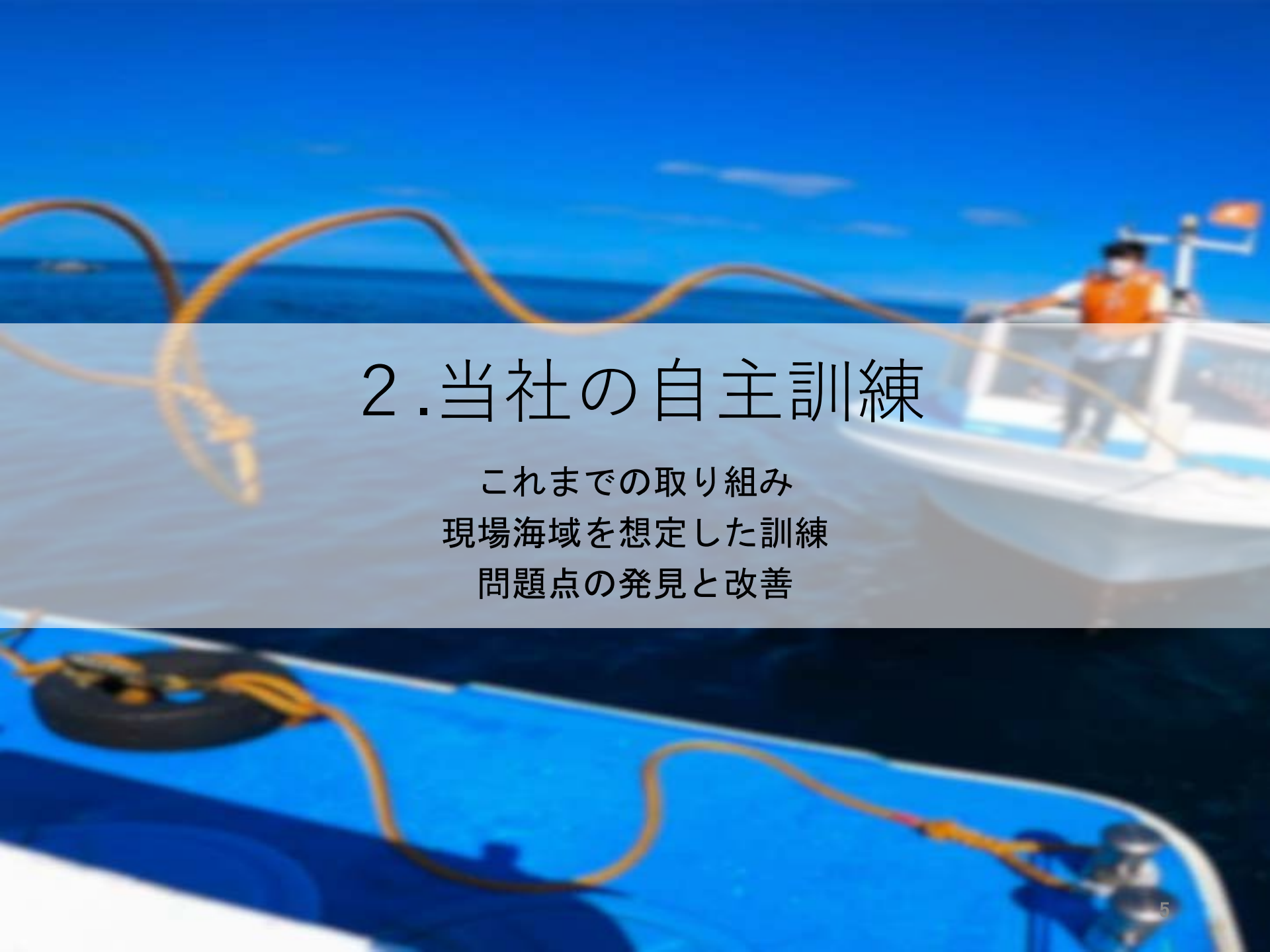
船サイドからの下船

海域の特性

- ✓ 岩礁 砂地
- ✓ 川の流れ込み
- ✓ 天候急変による運航中止の判断
- ✓ 緊急時乗り場への変更
- ✓ プレジャーボート
- ✓ 水上バイク・SUP等
- ✓ 海女



水上バイクやSUPなどが航路を通る

A person wearing an orange life vest is on a white boat, handling a thick yellow rope that extends across the water. The background is a clear blue sky and sea. The rope is coiled and draped over the side of the boat.

2. 当社の自主訓練

これまでの取り組み
現場海域を想定した訓練
問題点の発見と改善

これまでの安全への取り組み

2005年	社内自主ルールの作成
2009年	船内火災想定消火訓練
2010年	緊急設備の取り扱い及び、救命胴衣の着用訓練
2011年	乗客落水時の救助訓練
2012年	救命浮器の整備及び投下訓練 自主ルール改訂及び安全講習会
2013年	社内安全講習会・運輸安全マネジメントレビュー
2014年	航行不能船からの乗客移動 落水者救助 曳航訓練 運輸安全マネジメントレビュー
2015年	新人船員の研修 運輸安全マネジメントレビュー 安全衛生講習会（救命胴衣の管理）参加 救命胴衣の点検

2016年	運輸安全マネジメントレビュー 甲板員勉強会及び意見交換会 自主ルール改訂に伴うミーティング 敦賀安全衛生講習会（労働災害 津波）参加
2017年	船長教育訓練自主ルール改訂に伴うミーティング
2018年	他社の人身事故の報告を受けミーティング実施 乗組員着衣時の落水救助訓練
2019年	新人船員の研修・船員勉強会実施
2020年	運輸安全マネジメントレビュー 新人船員研修
2021年	救命胴衣着用訓練
2022年	甲板員勉強会 GW前定期ミーティング 座礁時の救助・曳航訓練

- ✓ 自主ルールの作成・改善
- ✓ 毎年の自主訓練実施
- ✓ 社内講習会の実施

- ✓ 運輸安全マネジメントレビュー
- ✓ 各講習会への積極的な参加
- ✓ 船長 甲板員の育成・研修

安全に対する様々な取り組みを継続的に実施

自主ルール作成

自主ルールとは…

自分達の意見をもとに
自分達で決めるルール

会社内自主ルールの取り決め (H17.4.22)

次に挙げる事項は、社員全員が自主的に決めたことであり各自がこのルールをしっかりと遵守してください

4 航法について

① 船着岸の出入り

出船優先で出船はまっすぐ下がる 池の前の船は待っている
入港船は、舟で待つか、ライオン岩側で待つ

② ドンゴ沖 及びヨットハーバーから東島切までの行き違い

航路を交差させない雄島へ向かう船は沖を通る 針路表示は大蛇で示す

③ 松島沖

サンセット及びエコツアー等で、松島方面に行っても磯には入らない

④ 荒天時の船長の心構え

各船長が、各船の性能、操船技術を踏まえ遠慮なく無断で退避する
大池については、荒天時は各船長の判断で出入りをする。

⑤ 航行時間 (平常営業日)

雄島からの帰り 聖の下まで 1500~1600回転

大池から大池まで 1200 回転前後

大池では、撮影時間を十分に取る

東島岩壁側については、舟にゆっくりと航行する

帰りについても全速を避けず 1600回転前後 とする

14 新人船長育成について

① 基本的に、一人で離岸岸できるまでは、雨の日 風の日も船長管理のもと毎日操船させること

② 法定書類、横断等の書き方、燃料の入れ方等船長に積極的に習うこと

③ 疑問に思ったこと、納得のいかないことは、遠慮せず会社に報告する

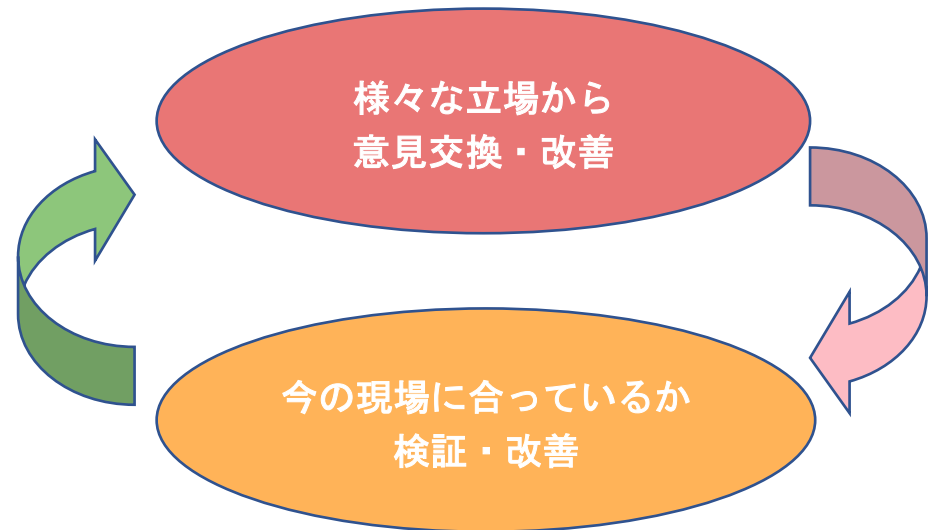
みんなで決めたこと、みんなで守りましょう



社内講習会



甲板員勉強会



現場に合ったより良いルールに

現場海域を想定した訓練

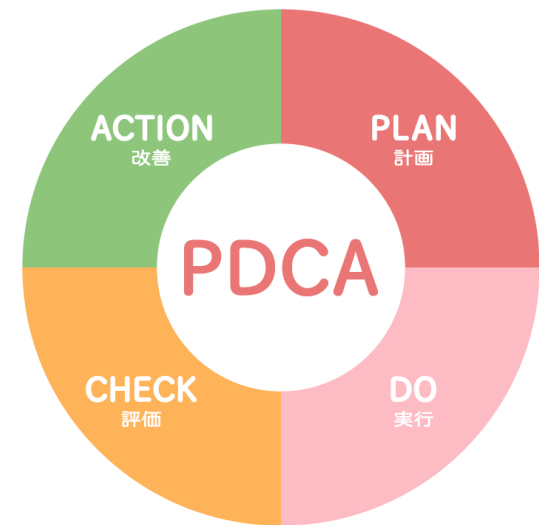
座礁時の救助・曳航訓練

- ① 浅瀬に乗り上げ無線で救助要請
- ② 救命胴衣着用方法の説明
- ③ 待機中の船を救助に向かわせる
- ④ 座礁船を沖へ曳航する
- ⑤ 横付けし乗客を移動させる
- ⑥ 落水者の救助
- ⑦ 近くの港まで曳航する



PDCAサイクルに沿った自主訓練

P	どのような訓練が必要か
D	実際に体験する
C	問題点の発見
A	改善策を考える

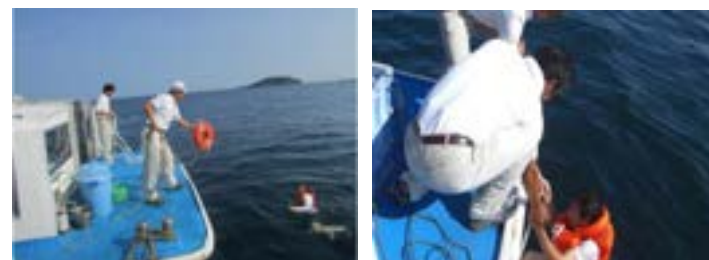


環境に沿った訓練・改善を繰り返し
スパイラルアップを図る

問題点の発見と改善

落水時の救助訓練

- ① 救助船は風下から落水者に近づく
- ② 甲板員は救命浮環を投入
- ③ 緊急用の梯子まで誘導し救助する



見つかった問題点(図1)

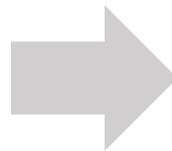
- ・オーバーハングになり自力で上がることができなかった(図1)



使用した梯子



図1



改善策(図2)

- ・船サイドのスペースを埋めるパイプを追加(図2)



図2

ヒヤリハット報告書

3.ヒヤリハットの活用

報告書の作成
改善策の共有

第五編島

ヒヤリハット報告書作成

内容

事例①(乗り降り)

- ・足の不自由な方が岸壁と船の間に落ちそうになった

事例②(入出港)

- ・出航する際 水上バイクが死角から船の後ろを通過した

事例③(運航中)

- ・岩陰の海女の発見が遅れ 引き波で桶がひっくり返りそうになった

改善策

乗降口の乗組員配置と補助の再徹底

甲板員だけでなく 見張り所 待機船 他の船も危険と気づいたら直ぐに無線で知らせる

陸上員のチェックと船からのWチェックで海女の移動に合わせ随時無線で連絡取り合う

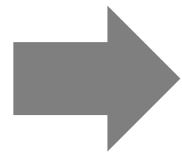


ヒヤリハット情報収集は
事故を未然に防ぐ重要なツールの為
積極的報告のルール化が必要である

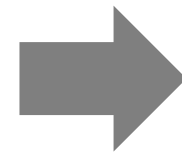
ヒヤリハット改善策の社内共有



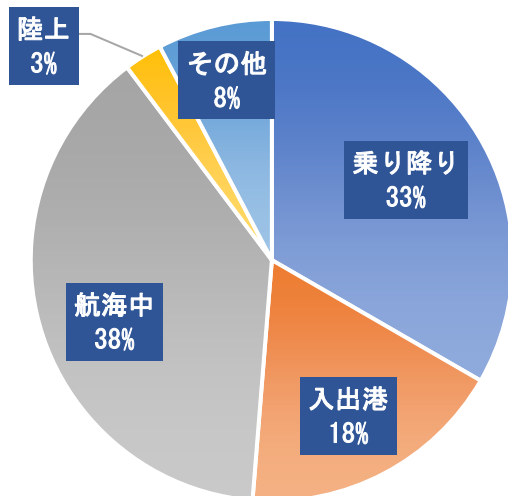
速やかに
会社に報告



朝礼 ミーティング
で話し合う



報告書に記載し
各船配布



同じ失敗を繰り返さない為に
解決策を全員で共有する

4.他社の事故を受けて

船長へのステップアップ
実施した取り組み

船長へのステップアップ

陸上員 → 甲板員 → 船長



- ✓ 全体の流れ
- ✓ ロープの取り方
- ✓ 乗客の安全最優先意識等の育成



- ✓ 各船の特性
- ✓ 機関 気象 船全般に係る知識
- ✓ フットワークの修練



- ✓ 海域の熟知
- ✓ 運航可否判断
- ✓ 風波による操船技術の習得

最低5～6年の経験が必要

実施した取り組み

他社事故での問題点

✓ **安全管理**

✓ **通信手段**

実施した取り組み

□ **運航基準遵守の徹底**

□ **非常時の連絡体制の再確認**

□ **非常設備 通路の点検**

□ **排水ポンプの作動確認**

□ **GPSのズレ確認**

□ **毎朝の無線テスト実施 ルール化**

新たな取り組み

訓練・安全への取り組み等の
社外広報 オウンドメディア





TOJINBO CRUISE

ご清聴ありがとうございました

東尋坊観光遊覧船株式会社